

リネン管理の見直し—看護職員の負担軽減を目指して—

福島県立医科大学附属病院 牧野 恵子

【概要】

当院は、平成 28 年に病院の別館が完成予定で、内容を検討中である。移動する部署、床面積はすでに決定し、リネン収容庫は縮小予定である。2 年後の移転に向けて、現在収納しているリネン数を見直し、今から省スペース化をはかる必要がでてきた。看護部の業務担当の副部長として、リネンの使用数を調査し、一般病棟でのリネン収容庫のリネン収容数の縮小・配置変更・物品配置の標準化を計画した。

また、それに伴い、リネンに関する業務を行っている各部署の看護師・看護補助者、定期的なシーツ交換を主に行う看護補助者、委託業者が行う業務を整理し、リネンの納品・使用・回収のシステムを変更し、収容場所の省スペース化をはかれないかと考えた。さらに、システムを変更した場合、事務部門、委託業者と交渉、調整を図りながら看護師の負担軽減につながることを目指して、病院全体のリネン管理を見直すことを考え、実践した結果を報告する。

【背景】

私は、看護部の業務担当の副部長として、日々管理業務を行っている。平成 28 年に病院の別館が完成予定であり、現在、多職種でワーキンググループを立ち上げ、内容を検討中である。一般病棟 2 部署、小児病棟、産科病棟、周産期センター、救急センターが移動予定である。すでに床面積は決定しており、限られたスペースで物品収納を考えていく必要がでてきた。その中で、リネン収容庫に関しては、各病棟で現在の約 2 分の 1 の床面積に縮小し、三角形の形状で、2 つ作成される予定である。そのため、限られたスペースで物品を収納していく必要がでてきた。2 年後の移転に向けて、現在収納しているリネン数を見直し、今から省スペース化をはかることを考えた。

当院の一般病棟は、1 フロアに看護単位が 2 つあり、2 部署間で、さまざまな連携をとっている。リネン収容庫は、1 フロアに 1 つあり、2 部署で使用している。一般病棟以外の部署は、部署ごとに専用のリネン収容庫を使用している。当院の一般病棟のリネン収容庫は、収容している棚や配置は、フロアごとに違っており、リネンの収納数は、置く棚の広さに合わせた数である。

また、リネンに関する業務は、各部署の看護師・看護補助者、定期的なシーツ交換を主に行う看護補助者、委託業者が行う業務がある。リネン収容庫に多くの物品を置かなくても、リネンの納品・使用・回収のシステムを変更し、省スペース化をはかれないかと考えた。さらに、システムを変更した場合、看護職員の負担軽減を念頭に置いて、事務部門、委託業者と交渉、調整を図りながら病院全体のリネン管理を見直すことを課題とした。

【実践計画】

- 2 年後の病院の別館建設により縮小予定のリネン収容庫に対応できるよう収納物品の数、収納方法を決定する。
 - リネン収容庫にあるリネンの使用数を調査し、新たな収納方法、収納に使用する物品等を決定する。
 - 一般病棟のリネン収納場所は、業務改善委員会・物品管理グループ師長と話し合い、6 部署が標準化した配置にできるよう計画し、実践する。
 - 小児・産科・周産期センター・救急センター等一般病棟以外の部署は、各師長と話し合い、それぞれの部署の状況に合わせた収納数・収納方法とする。
- リネンに関する委託業務の内容、看護師・看護補助者の業務を整理し、負担軽減につながるシステム作りをする。
 - リネンの回収から供給までの仕組み、リネンに関する委託業務の内容、委託料・契約内容を把握し、

看護職員の負担軽減につながる内容を明確にする。

2) 事務部門と連携しながら、リネン管理の見直しを検討する。

【結果】

全部署でリネンの使用数を調査した。その後、一般病棟のリネン収容庫の変更は、副部長として担当している業務改善委員会の物品管理グループ師長と話し合い、概略を決定した。業務改善委員会の物品管理グループ師長と 5S を推進している師長・副師長のいる部署が同じフロアであったため、その部署をモデルとすること、その部署での担当者は、物品管理係・業務改善委員、看護補助者、全体の指示・統括係として、副師長というメンバーとした。リネン庫の配置変更を使用する棚は、今後自分たちでリネン庫内のレイアウトが変更できるよう可動式のものとし、配置は、使用頻度の多いものを取りやすい位置に配置し、使用頻度の低いものをその他の位置に配置することとして、詳細は、モデル部署に依頼した。

モデル病棟の担当者は、2 部署で連携を取り、自ら他のリネン収容庫を見学に行き現状を把握し、委託業者の意見も取り入れて、物品の配置場所を決定した。この過程は、写真撮影をし、手順を記録してもらい、他の部署の配置変更の際の参考とした。モデル部署で軌道にのったことを確認後、師長会で一般病棟のリネン庫の配置変更について説明を行った。自部署の収納物品にあわせた棚のサイズへの変更・棚板の数の変更を 2 病棟で話し合い、決定してもらった。その後、業務改善委員会でモデル部署が行った内容を基に作成した手順書を配布した。モデル病棟以外では、手順がわかりにくい等の意見もあり、やらされ感が強い部署もみられた。一般病棟以外の部署は、事前に各師長と連絡を取り、各部署の状況に合わせた収納方法にすることにした。

看護職の負担軽減につながるリネンの管理方法を明確にするために、委託職員の業務内容と委託料の把握を行った。現在の看護補助者の業務、定期的にシーツ交換を行っている看護補助者の業務等も踏まえ、当初、退院後のベッドのシーツ類のかたづけを想定し事務部門と委託業者に交渉した。委託業者からは、マンパワーの増加があれば可能であるとの返答があった。しかし、委託業者の業務量増加による契約内容の見直しは、病院の委託費の上昇につながるため、来年度の実現は不可能となった。また、委託業者への業務委譲に関しては、産科病棟と周産期センターでは、従来、看護補助者・看護師が行っていた自部署の棚へのリネンの収納をリネン委託業者の職員に依頼した。また、今年度は、休日出勤の可能な看護補助者の増員を図ったため、数か所の部署では、看護補助者が休日勤務を開始した。その部署では、入院時のベッドメイキング、退院後のかたづけは、看護師から補助者に業務委譲できた。

【評価及び今後の課題】

今回、一般病棟でのリネン収容庫のリネン収容数の縮小・配置変更・物品配置の標準化はできた。部署によっては、約 30%のスペースが縮小された。変更後に、収納するリネンが、看護職員にとって使用しやすい配置で、動線の縮小につながっているか、配置数は、過不足がないかは、経時的に評価していく必要がある。また、モデル病棟とそれ以外の部署の職員の取り組み方にも差があり、モデル病棟での手順の伝達を聞くだけでなく、他の部署の職員が自分の意見を出し実施できるような設定が不足していたことが原因と思われた。今後は、他部署の職員自らが効率よく業務ができることを考え実施することができるように、各フロア、部署、委員会、係等で十分話し合う機会を設定することが課題である。

今回は、シーツ、布団、病衣等の管理を見直したが、バスマットやミトンなどそれ以外のリネンの定数化、標準化も検討していきたい。2 年後の別館への移転へ向けて、収納方法などの評価をして、今後の計画にいかしていきたい。また、委託業者への業務委譲の交渉は、今後も続けていきたいと考えている。